

第1回泉佐野市丘陵緑地運営会議設立準備会

大阪府では、泉佐野市丘陵緑地の公園整備について、各界専門家からなる標記の運営会議設立準備会を設置し、府民の皆様にご理解いただける公園運営計画案の策定に努めてまいります。

この度、第1回の会議を開催いたしました。その概要は下記のとおりです。

会議の概要

- 日時：2007年12月7日（金）16:00～18:00
- 場所：全日空ゲートタワーホテル4F（末広の間）
- 出席委員（敬称省略）
 - 大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科教授 増田 昇(委員長就任)
 - 大阪市立大学環境都市工学科准教授 嘉名 光市
 - 大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科准教授 下村 泰彦
 - NPO法人プラス・アーツ代表 永田 宏和
 - 大阪ガス エネルギー・文化研究所研究員 弘本 由香里
 - 泉佐野観光ボランティア協会会長 吉野 勝
 - 大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科 中村 彰浩（代理出席）
 - 泉佐野市都市整備部長 松下 義彦（代理出席）

審議の概要

- 議題「今後の運営体制検討の進め方」
 - ・ 泉佐野丘陵緑地の概要（位置・周辺地域・理念・整備の方向性等の概況）、泉佐野丘陵部緑地基本計画（案）に対する府民意見などについて、事務局から説明。運営体制の検討にあたり、必要となる論点を抽出した。（会議に先立ち、現地を視察）
- 各委員の主な意見、質疑
 - ・ 当計画地は25万人とかなり低く見積もっている。これは、単にジョギングしたり通り過ぎたりする人を増やすのではなく、深く公園と関わる人を増やしたいためである。このことを計画地の位置づけとして明確に示すことが必要。
 - ・ 多くの人が公園で活動するためには、理念が必要。しかし、公園の理念を明確にすればするほど、公園に関わる人を限定してしまうし、ぼんやりしていると活動がなかなか修練しない。そのことを踏まえた上で公園の理念を明確にすることが必要。
 - ・ 公園で活動するボランティア団体であるパーククラブは、管理の手伝いをしているクラブになってしまうと面白くない。理念を共有しつつ自分たちがや

りたいと思っていることを実現できるようなクラブになるといい。パーククラブの養成にあたっては1つのカリキュラムで総合的なものにするのか、特定のテーマによるカリキュラムで構成にするのかを議論することが必要。

- ・ 行政によって開催された自然学習塾や体験塾等のカリキュラムを受講した卒業生が、活動場所がなく困っている場合がある。そういう人たちの受け皿として当計画地を活用していく方向も検討すべき。
 - ・ 計画地周辺にはすでにいろいろな団体が活動している。その活動している人たちの意見を聞いてみる必要がある。
 - ・ パブリックコメントで出されているように、多くの人々が活動すると、声の大きい人や昔から活動している人が権利ばかり主張することがある。多くの人たちが公平に一定のマナーとルールのもと活動できる運営体制になるように、議論が必要。
- 委員長まとめ
 - ・ 計画地のこれまでの経緯や基本計画の内容を十分に理解するには運営体制やボランティアの養成、公園整備と運営会議のかかわり方について、先行事例の調査分析もふまえて、さらに議論をしていく必要がある。